CR-X BT

MULTIMEDIA MONITORS w/ BLUETOOTH

日本語オーナーズマニュアル

MACKIE.

AUG 2020/Rev.A

安全のために

この製品を設置、使用される前に必ずお読みください。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使いください。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守ってください」という強制を表しています。
	「絶対にしないでください」という禁止を表しています。

⚠ 警告 この記号は取り扱いを誤ると死亡や重症、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。

必ず実行

本書を全て読むこと
この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み、本書の内容に従ってください。

禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと
この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないでください。また、この製品を雨や霧にさらさないでください。感電や火災、故障の原因になります。

必ず実行

電源コードや接続ケーブルは安全に配置すること
電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないでください。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないでください。負傷の原因になる場合があります。

禁止

本体を落下しないこと
本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。

必ず実行

異臭や異常を感じたら修理を依頼すること
正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付けください。

必ず実行

専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること
適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。当モデルは100V 専用モデルです。日本国外では使用できません。

禁止

大音量で使用しないこと
この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないでください。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。

禁止

長時間にわたってヘッドフォンで大きな音量を聴かないこと
一時的または恒常的な難聴になる場合があります。

必ず実行

移動するときはケーブルを全て抜くこと
電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないでください。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。

禁止

本体内部に液体や物をいれないこと
火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼ください。

禁止

改造を行わないこと
決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないでください。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意ください。

禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと
感電の原因となる場合があります。

必ず実行

長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと
火災や感電、故障の原因になる場合があります。

必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものを使うこと
適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。

必ず実行

他の機器と接続するときはこの製品の電源を切っておくこと
接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。

必ず実行

電源ソケットに手が届くよう設置すること
この製品の背面には電源を遮断する電源スイッチが付いています。この電源ソケットに簡単に手が届くよう設置してください。

⚠ 警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重症、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。

このスピーカーを吊り下げないこと
製品が落下して、近くにいる方が死亡または負傷する原因になる場合があります。このスピーカーは吊り下げて使うようには設計されていません。

本体の内部や周囲で可燃性ガスのスプレーを使用しないこと
ガスが滞留して引火による火災などの原因になります。

⚠ 注意

この記号は取り扱いを誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。

本体は安定した場所に設置すること
本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと
本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。

スピーカーは定格範囲内で使用すること
定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する場合があります。特に歪にはご注意ください。

高温になる場所に設置しないこと
直射日光が当たる場所、熱を発するものの近くに置かないでください。製品の上にろうそくなど裸火を置かないでください。

裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと
この製品に直射日光を当てたり、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないでください。本体が故障する原因になります。

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと
この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。

この製品に付属している電源コードをほかの電気用品に使用しないこと
この製品に付属している電源コードはこの製品専用のものです。ほかの電気用品には絶対に使用しないでください。

長時間使用しない場合はリアパネルの電源スイッチをオフにすること
フロントパネルにあるボリュームノブでは、電源を完全にオフにすることはできません。リアパネルの主電源スイッチをオフにすることにより、製品の寿命を延ばすことができます。

修理

- 日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従ってください。
- 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認してください。
- テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求してください。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、03-5534-6783 へ FAX もしくはメールにて送付してください。折り返し修理受付番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX もしくはメールにて返送致します。修理受付番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得してください。
- オーナーズマニュアルと付属コードは同梱しないでください。修理には必要ありません。
- 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付してください。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- 修理受付番号が記載された修理受付表のコピーを必ず同梱してください。また送り状の通信欄にも、修理受付番号と商品名、製造番号を記載してください。修理受付番号のない修理品は受付できません。

保証

- 本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、予めご了承ください。
- お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- 正常な状態でのご使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- 日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホームページをご参照ください。
mackie-jp.com/support

サポートセンター

〒 136-0083 東京都江東区若洲 2-6-6 千住倉庫 1F B 棟
株式会社日本システムサービス内
☎ 03-5534-6782
FAX 03-5534-6783
Mail support_mackie@otk.co.jp
営業日　月曜日〜金曜日　9：00 〜 17：30
休業日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

営業窓口
東京　東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1
☎ 03-3639-7800（代表）
FAX 03-3639-7801
大阪　大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4 7F
☎ 06-6152-7751
FAX 06-6152-7752
名古屋　愛知県名古屋市東区泉 1-23-30
☎ 052-950-3324
FAX 052-950-3325
広島　広島県広島市中区富士見町 16-22-604
☎ 082-258-2916
FAX 082-2582917
福岡　福岡県福岡市中央区大名 1-4-1 ND ビル 5F
☎ 092-408-1775
FAX 092-408-1776
仙台　宮城県名取市杜せきのした 2-2-16-101
☎ 022-797-5281
FAX 022-797-5282

営業日　月曜日〜金曜日　9：00 〜 17：30
休業日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。
Mail sales_mackie@otk.co.jp

Contents

CR-XBT の特徴 5
はじめに 6
クイックスタート 6
接続図 7
リアパネルの機能 9
1. 電源コード 9
2. 電源スイッチ 9
3. INPUTS 9
4. STEREO IN (UNBALANCED) [CR5-XBT] 10
5. POWERED SPEAKER POSITION SELECT スイッチ 10
6. PASSIVE SPEAKER INPUT 10
7. カスタムチューンド・リアポート 10
フロントパネルの機能 11
8. ヘッドフォン出力端子 11
9. ボリュームノブ 11
10. Running Man ロゴ / LED / Bluetooth ボタン 11
11. SEASON ノブ [22 世紀以降対応予定 ?] 12
入力信号の配線 12
製品を長きにわたり使っていただくためには 12
お手入れとメンテナンス 12
付録 A: サービスについて 13
付録 B：技術情報 14

CR-XBT の特徴

大ヒットモデル CR シリーズサウンド

- プロフェッショナルスタジオサウンドクオリティ
- デスクトップスピーカーの最良の選択肢
- 音楽制作、コンテンツクリエーター、ゲーミング PC、お気に入りの音楽再生などさまざまな用途に対応

Bluetooth® ストリーミング

- Bluetooth 対応デバイスを接続し、直接音楽をストリーミング

プラグアンドプレイ

- アンプ / ボリュームコントロール機能搭載スピーカーを L/R どちらにも設置可能な L/R スピーカー切り替えスイッチ搭載
- ボリューム ON/OFF レベルコントロールノブをフロントパネルに搭載
- フロントにヘッドフォン端子を装備。ヘッドフォンを装備するとボリュームコントロールがヘッドフォンボリュームコントロールに
- 豊富な入力端子 - 1/4 インチ , Bluetooth, RCA, 1/8 インチ [CR5-XBT]

最先端のデザイン

- デザイン性に優れたブラッシュメタル加工のフロントパネル
- CR シリーズの特徴であるグリーンの縁取り

同梱アクセサリー

- ヘッドフォン出力端子と接続するためのステレオミニ - RCA x 2 ケーブル
- スマートフォンやメディアプレーヤーと接続するための両端ステレオミニケーブル [CR5-XBT]
- L/R スピーカー接続ケーブル
- アイソレーションパッド [CR5-XBT]

はじめに

Creative Reference マルチメディアモニタースピーカー CR-XBT シリーズは、音楽制作やコンテンツ制作などのプロフェッショナルな現場から、ゲーミング PC 用、お気に入りの音楽のリスニングまで、仕事においても遊びにおいても真のプロフェッショナルスタジオクォリティサウンドを再生します。デザイン性に優れたブラッシュメタル加工のフロントパネルと、CR シリーズの特徴であるグリーンの縁取りを採用し、3 インチ、４インチ、5 インチのモニタースピーカーを用意しました。用途や設置場所、予算に合わせて選択できます。また Bluetooth 機能を搭載しており、スマートデバイスなどからのストリーミングを可能にします。CR-XBT Creative Reference マルチメディアモニターであなたのリスニング環境をアップグレードしましょう。

このマニュアルの使い方

この後に続くクイックスタートガイドでは、本機を設定するための手順が説明されています。接続例では典型的な使用例を紹介し、後半のページでは CR3-XBT、CR4-XBT、CR5-XBT の詳しい使い方について説明します。

このアイコンは、このシリーズで特に重要な情報、あるいは独自の情報を示す際に使われています。よく読み、覚えておくと良いでしょう。いざというときに役立ちます。

このアイコンは、このシリーズを使用する際の機能や TIPS を紹介する際に使われています。

クイックスタート

すぐにでも CR-XBT シリーズを箱から取り出して音を鳴らしてみたいところですが、このページだけは読んでください。その他のページは必要になった時で構いません。

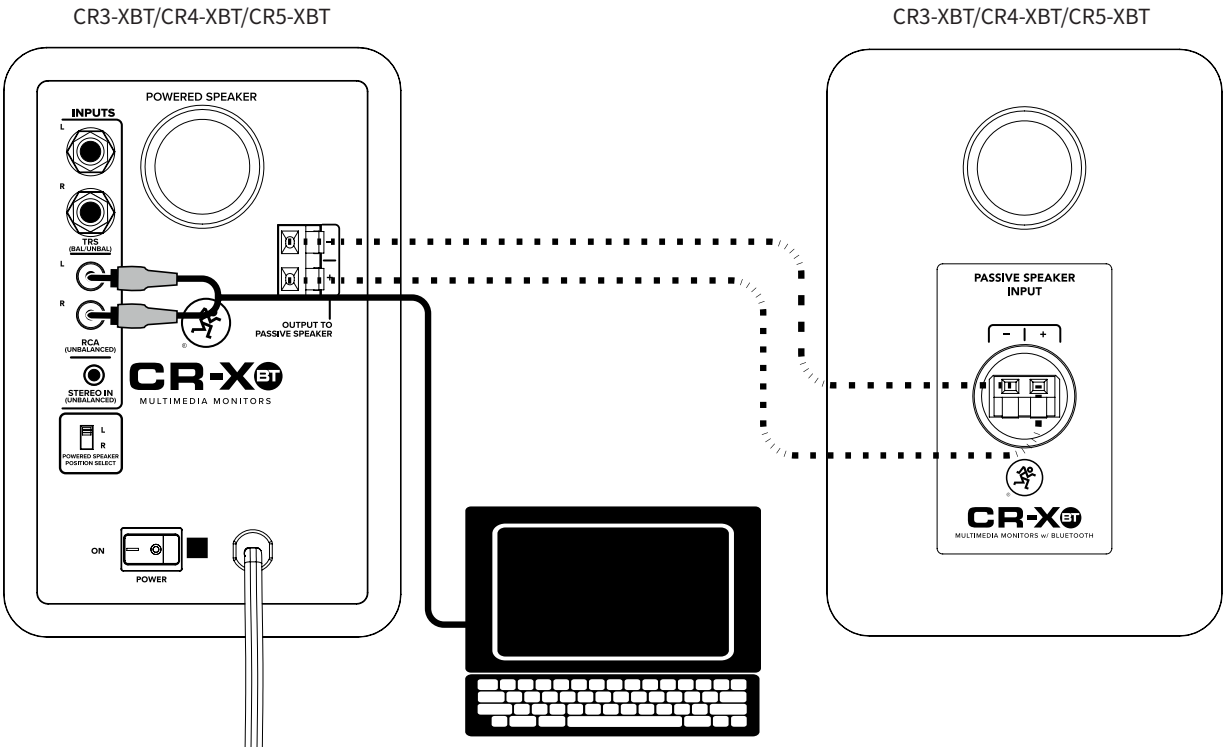
1. 電源を入れる前に、フロントにある LEVEL メーターを反時計回りに完全に回しきってボリュームを落としてください。
2. スピーカーリアパネルの電源スイッチがオフになっている事を確認します。これによりケーブルを接続した際の突然の大音量ノイズを回避することができます。
3. パワードモニター側（電源スイッチがあるスピーカー) の黒 (−) と赤（＋）のスプリングクリップをパッシブモニター側 (スイッチが無いスピーカー)の黒 (−) と赤(＋)のスプリングクリップとスピーカーケーブルで配線します。
4. 電源コードを電源コンセントに接続してください。本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。
5. スピーカーの電源を入れます。
6. Bluetooth 経由でデバイスを接続します（詳細は P.8 ～ P.9 を参照してください)。
   もしくは ...
   コンピューターやミキサーもしくはその他のデバイスからのラインレベルの信号を、モニタースピーカーのリアパネルのステレオフォン端子、ステレオミニフォン端子もしくは RCA ピンへ入力します。
7. フロントのボリュームノブを時計回りに、ノブがクリックするまで回します。ボリュームノブの回りを囲った LED リングが点灯します。
8. 音源を再生し、聴きやすい音量になるようにゆっくりとフロントパネルのボリュームノブを調整します。

残りのページにも CR-XBT モニターに関する様々な情報が記載されていますので、意欲のある方は是非読み進めてください。

その他の注意

- 長時間、大音量で音楽を聴くと難聴の原因となる恐れがあります。P.2 の安全条項をよく読んでください。
- 一般的に機器の電源を切る際は、モニタースピーカーの電源を最初に切ってください。あらゆる機器から発生される恐れのあるノイズを防ぐことができます。電源を入れる際は、モニターを最後に入れるようにしてください。
- 梱包箱や同梱物は大切に保管してください。将来必要になる場合があるかもしれません。
- 保証書は大切に保管してください。紛失してしまった場合、保証の対象外となってしまう可能性があります。予めご了承ください。
- フロントパネルにあるボリュームノブでは、電源を完全にオフにすることはできません。リアパネルの主電源スイッチをオフにすることにより、製品の寿命を延ばすことができます。長時間使用しない場合はリアパネルの主電源スイッチをオフにしてください。

接続図



上のイラストは CR-XBT マルチメディアモニターシリーズの典型的な使用例を示したものです。仕事中の BGM は欠かすことができませんよね。私だけではないと信じています。

この例では、シンプルにコンピューターのステレオミニフォン端子と CR-XBT の RCA 入力端子を、同梱されているケーブルを使用して接続しています。RCA ピンではなくてステレオフォン端子でも接続可能です。また CR5-XBT には 1/8 インチステレオフォン入力端子も搭載されています。

次にパッシブスピーカーを接続します。パワードモニター側（電源スイッチがあるスピーカー）の黒（－）と赤（＋）のスプリングクリップをパッシブモニター側 (スイッチが無いスピーカー）の黒 (－) と赤（＋）のスプリングクリップとスピーカーケーブルで配線します。

黒（-）と黒（-）、赤（+）と赤（+）を接続

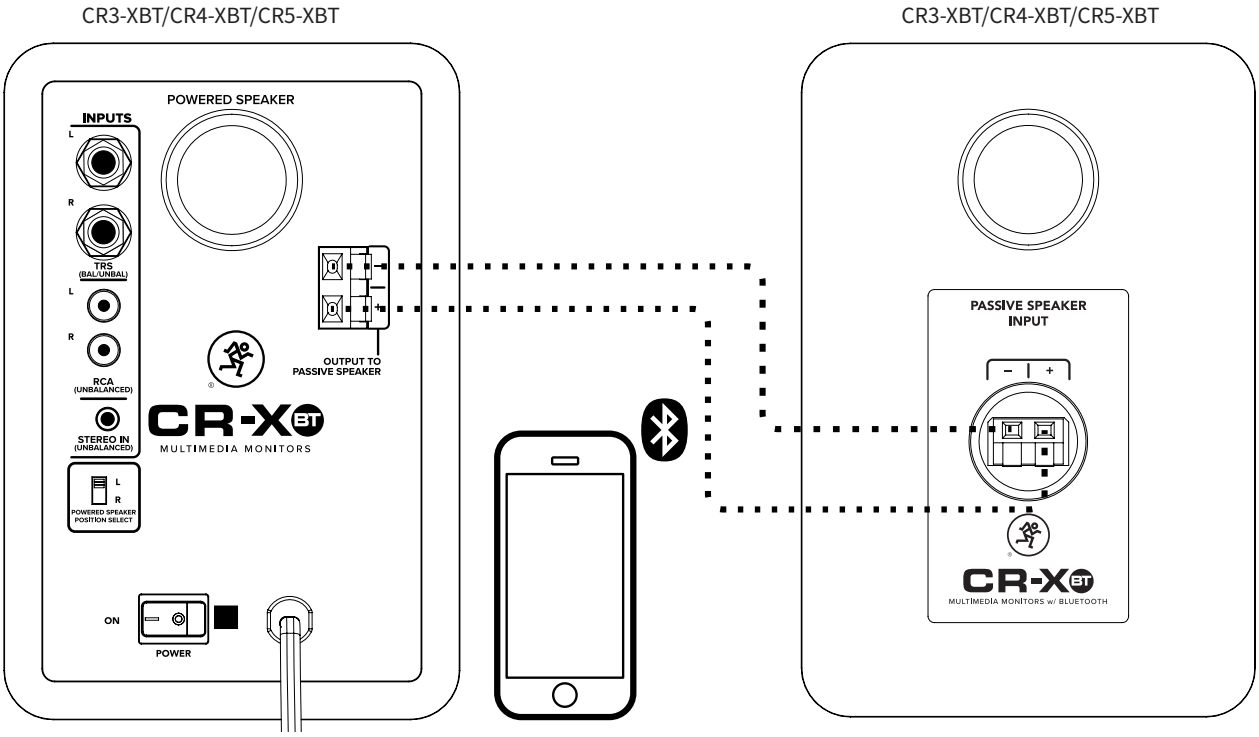
ゴールまでもうすぐです。パワードスピーカーポジションセレクトスイッチを L と R のいずれかにセットします。ボリュームノブが付いているパワードタイプのを机の左に配置した場合は L、右に配置した場合は R にセットしてください。

次にモニターを好みの場所に配置します。コンピューターとモニターのボリュームを 0 にセットし、音源を再生してください。

最後のステップです。最適な音が得られるようモニターの位置を調整し、音量を調整します。

CR5-XBT のみアコースティックアイソレーションパッドが付属しています。このアコースティックアイソレーションパッドを CR-5XBT の底面に敷くことにより不要な低域の鳴りを抑え、定位感を向上できます。更にリスニングポジションに最適な高さに調整することができます。

接続図



上のイラストは CR-XBT マルチメディアモニターシリーズの典型的な使用例を示したものです。状況としては、あなたの友人がスマートフォンを使って特別なプレイリストを作って、是非あなたに聴かせたいと思っている、といったところでしょうか。決して良い趣味とは言えない楽曲に耳を傾けるときが遂にきました。この経験は誰もが一度はしているはずです。

この例では、スマートフォンは Bluetooth® を介して CR-XBT シリーズと接続されています。

次にパッシブスピーカーを接続します。パワードモニター側（電源スイッチがあるスピーカー）の黒（－）と赤（＋）のスプリングクリップをパッシブモニター側 (スイッチが無いスピーカー）の黒 (－) と赤（＋）のスプリングクリップとスピーカーケーブルで配線します。

黒（-）と黒（-）、赤（+）と赤（+）を接続

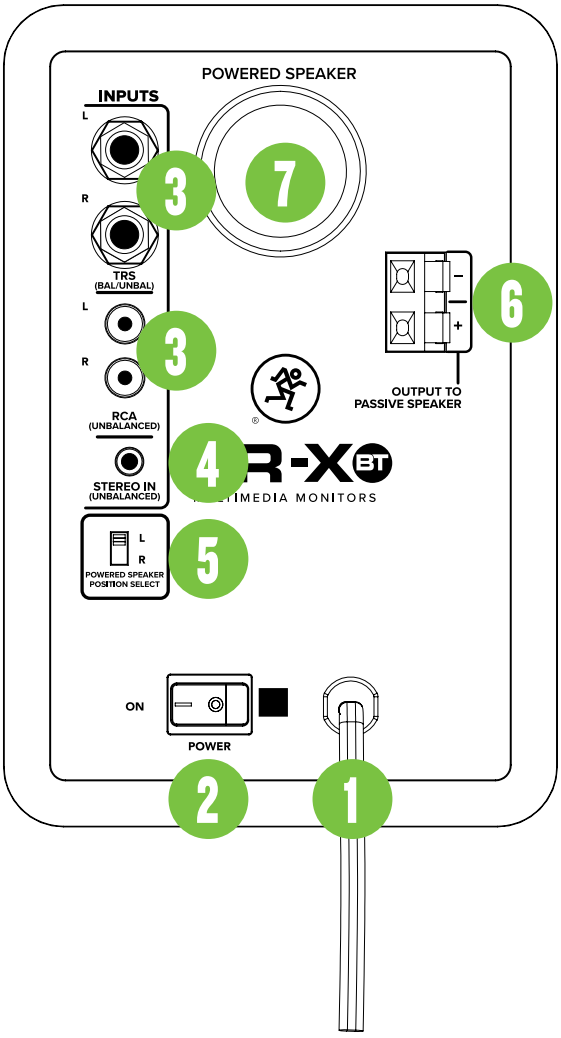
ゴールまでもうすぐです。パワードスピーカーポジションセレクトスイッチを L と R のいずれかにセットします。ボリュームノブが付いているパワードタイプのを机の左に配置した場合は L、右に配置した場合は R にセットしてください。

次にモニターを好みの場所に配置します。スマートフォンとモニターのボリュームを 0 にセットし、音源を再生してください。

最後のステップです。最適な音が得られるようモニターの位置を調整し、音量を調整します。

オプション：ヘッドフォンジャックにヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカーの出力がオフとなります。フロントパネルのボリュームコントロールで、ヘッドフォンのレベルを調整します。

リアパネルの機能



1. 電源コード

電源コードを電源コンセントに接続してください。本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。

2. 電源スイッチ

このスイッチを左側に押しこむことで電源がオンになります。電源を入れる前に、ボリュームノブがオフ（反時計回りに回しきった状態）であることを必ず確認してください。

フロントパネルの Running Man ロゴを囲っている LED リングは、CR-X シリーズを電源コンセントに接続し、電源スイッチをオンにして、ボリュームノブを時計回りに「カチッ」と音がするまで回すことで白く点灯します。

このスイッチを右側に押し込むと、モニターはスタンバイ状態になります。

注意：フロントパネルにあるボリュームノブでは、電源を完全にオフにすることはできません。リアパネルの主電源スイッチをオフにすることにより、製品の寿命を延ばすことができます。長時間使用しない場合はリアパネルの主電源スイッチをオフにしてください。

3. INPUTS

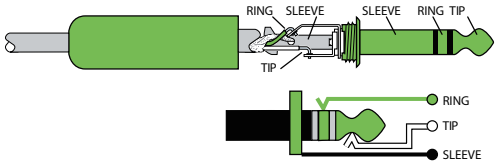
コンピューター、ミキサー、またはその他の音源からのライン出力をこの入力端子に接続します。端子には 2 つのタイプがあります。バランス、アンバランスソースを接続できる TRS 端子と、アンバランスソースを接続できる RCA 端子が搭載されています。これらの端子は電気的に相互接続しているため、同時に一箇所以上の入力端子を使用しないように気をつけてください。

6 メートル以上のオーディオケーブルを用いて接続する場合、構造的にノイズが乗りにくいバランス伝送を用いることを推奨します。

AES（Audio Engineering Society）の規格に基づき、以下のように配線されています。

1/4 インチ TRS バランス モノラル配線

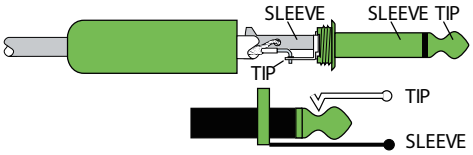
スレーブ = シールド（グラウンド）
チップ = ホット（+）
リング = コールド（-）



アンバランスのライン信号を入力端子に接続する場合は、1/4 インチモノラルフォン (TS) 端子を使用します。配線は以下の通りです。

1/4 インチ TS アンバランス モノラル配線

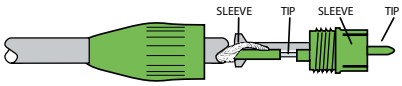
スレーブ = シールド（グラウンド）
チップ = ホット（+）



アンバランス RCA 端子は次のように配線されています。

アンバランス RCA 配線

スレーブ = シールド（グラウンド）
チップ = ホット（+）



4. STEREO IN (UNBALANCED) [CR5-XBT]

MP3 プレイヤーやスマートフォンもしくはその他のデバイスからのラインレベルの信号を、アンバランスの 1/8 インチ端子を使用してこの入力端子に接続します。

配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

ステレオ 1/8 インチ TRS

スレーブ = シールド（グラウンド）
チップ = L チャンネル
リング = R チャンネル

注意：TRS 端子と RCA 端子、ステレオミニフォン端子に同時に音源を接続すると、アンプ部に不具合が生じ故障する可能性があります。絶対に同時接続しないでください。

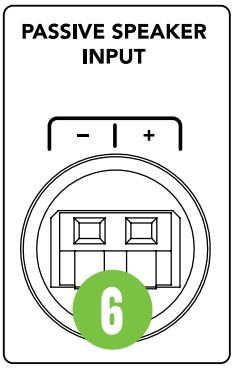
5. POWERED SPEAKER POSITION SELECT スイッチ

このスイッチで電源コードがついているパワードスピーカーを机の左側（スイッチアップ）に配置するか右側（スイッチダウン）に配置するかを決定します。

この機能があることでコンセントの位置に縛られることなく、コントロールが付いているスピーカーを左右どちらに配置するかを決めることができます。また、左利きの方も右利きの方も関係なく自由にスピーカーを配置できます。シンプルに、パフォーマンスを最大限発揮できるように設置をしてください。

6. PASSIVE SPEAKER INPUT

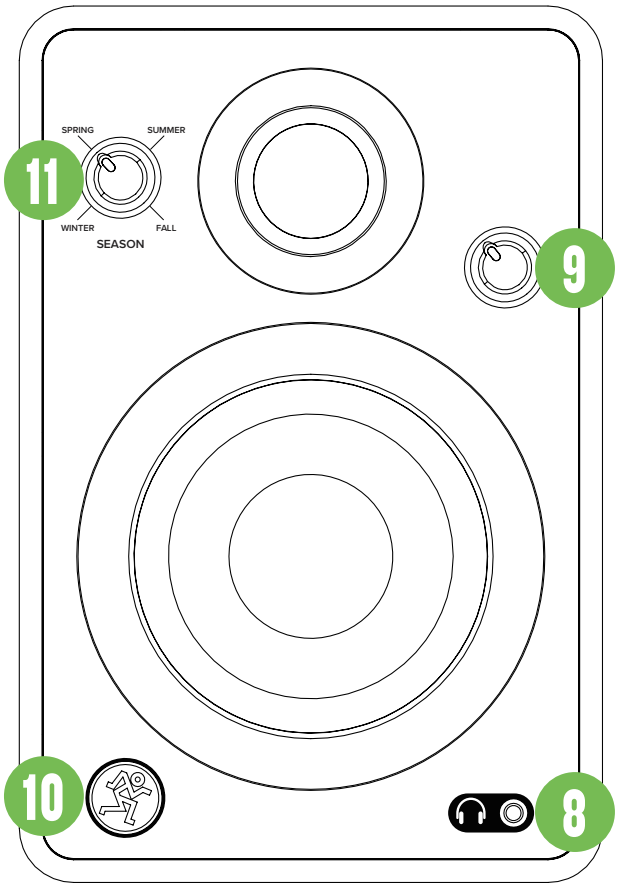
付属の黒（–）および赤（+）のスピーカーケーブルを、パワードスピーカーの±スプリングクリップ（6）からパッシブモニターの±スプリングクリップ（右図を参照）に接続します。



7. カスタムチューンド・リアポート

リアパネルへ特性に合わせて設計されたポートを開け、ウーファーコーンの後面から出る低域の音波を反転させて正相として放射させることで、低域レスポンスを向上しています。ポートのサイズはキャビネットのボリュームとウーファーの特徴に合わせて最適な大きさに設計されています。

フロントパネルの機能



8. ヘッドフォン出力端子

この 1/8 インチ TRS 端子からはヘッドフォンへステレオ信号が供給されます。ボリュームはボリュームノブでコントロールすることができます。ヘッドフォンが接続されると、パワーアンプへの信号は切断され、スピーカーから音が出なくなります。

配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

ステレオ 1/8 インチ TRS

スレーブ = シールド（グラウンド）
チップ = L チャンネル
リング = R チャンネル

注意：このヘッドフォンアンプはかなりの音量で再生されることがあるため、難聴の原因となる場合があります。ヘッドフォンによっては中程度のレベルでも痛いほどの音量となる可能性があります。ご注意ください！必ずボリュームノブを下げきってから、ヘッドフォンを接続してください。そして音楽を再生しながらゆっくりと音量を上げてください。ボリュームの調整は、できる限りゆっくりと行うようにしてください。

9. ボリュームノブ

CR-XBT シリーズのマルチメディアモニターは、入力にラインレベルの信号が必要です。このノブによりシグナルの入力感度を調整できます。

このボリュームノブは、スピーカーおよびヘッドフォンの音量調整のみに使用します。反時計方向へクリックするまで回しても、電源を完全にオフにすることはできません。リアパネルの主電源スイッチをオフにすることにより、製品の寿命を延ばすことができます。長時間使用しない場合はリアパネルの主電源スイッチをオフにしてください。

レベル設定の手順は P.6 のクイックスタートセクションを参照してください。

10. Running Man ロゴ / LED / Bluetooth ボタン

フロントパネルの Running Man ロゴを囲っている LED リングは、CR-XBT シリーズを電源コンセントに接続し、電源スイッチをオンにして、ボリュームノブを時計回りに「カチッ」と音がするまで回すことで白く点灯します。

このロゴは見た目が美しいだけではありません。Bluetooth を使ってデバイスをスピーカーに接続する際にも使用します。接続方法は下記のとおりです。

CR-XBT の電源を入れると、Bluetooth は以下のどちらかの状態になります。

1. スリープ状態
   下記の「**初めてペアリングを行い接続する**」を参照してください。
2. デバイスをペアリングし、接続している状態
   次のページの「**以前よりデバイスをペアリングし、接続している**」を参照してください。

初めてペアリングを行い接続する：

Bluetooth ボタンを押すことで、ペアリングモードに入ります。ペアリングモード中は、約 30 秒間 LED が点滅します。（LED はデバイスと問題なくペアリングができるまで点滅し続けます。）

CR-XBT がペアリングモードに入ると、LED の点滅と同時に Bluetooth デバイスのスキャンを開始します。お持ちのデバイスの Bluetooth 機器リスト上に、CR-XBT が表示されます。その後、タップして選択してください。CR-XBT を選択後、お持ちのデバイス上で問題なくペアリングができたかどうか確認をしてください。無事にペアリングができた場合、CR-XBT の LED の点滅が止まり、常時点灯している状態となります。もし上手く行かなかった場合、ペアリングの作業をもう一度行ってください。この時、CR-XBT とお持ちのデバイスが同時にペアリングモードに入っていることを必ず確認してください。

以前よりデバイスをペアリングし、接続している：
デバイス同士の距離が離れてしまった場合、Bluetooth の通信は切断されます。以前よりペアリングを行っているデバイスの場合、CR-XBT の電源を入れると自動的に再接続されます。

Bluetooth デバイスが CR-XBT に接続されている場合、本体の Bluetooth ボタンを押すことで、オーディオを一時停止 / 再生できます（デバイスの一時停止 / 再生ボタンと同じ機能です）。

静電気放電（ESD）が発生すると、機器の誤動作の引き金となり、Bluetooth 接続が解除される場合があります。その場合は手動で再接続してください。

11. SEASON ノブ [22 世紀以降対応予定 ?]

このノブを使用することで、好みの季節に設定ができます。日本の長い梅雨は洗濯物も外に干せなくて嫌ですよね？また真夏にスキーがしたくなったことはありませんか？そんな時にこのノブを活用してください。

このノブを回して、好みの季節に設定します。ノブが所定の位置でカチッと止まります。4 つの季節がリストされていますが、中間に設定することもできます。例えば、冬が終わりこれから春を迎えようとしている期間はとてもわくわくしますよね！是非お好きな設定を教えてください！

ただし残念ながら現時点ではこのノブは実装されていません。青くて有名な猫型ロボットが 2112 年からやってきて「季節カンヅメ」を持ってきてくれるのを待ちましょう。

入力信号の配線

CR-XBT マルチメディアモニターには、下記のアクセサリーが付属します。

- コンピューターとスピーカー接続用のステレオミニ - RCA ケーブル
- スマートフォンまたはメディアプレーヤーを接続するための 1/8 インチ - 1/8 インチケーブル [CR5-XBT]
- LR スピーカー接続用ケーブル

これらのケーブルは最初から付属していますが、別のケーブルがいずれは必要になるでしょう（例えば猫と綱引きをしたり、ギフト梱包用に使ってしまったりすることもあるかもしれません）。もしくは 1/4 インチ端子を好んで使うかもしれません。その場合は、高品質のシールドケーブルを使用することをお勧めします。

CR-X シリーズに対応している 3 タイプの端子は、ほとんど全ての用途に対応することができます。

- バランス TRS フォン端子もしくはアンバランス TS フォン端子は、1/4 インチ入力端子に接続できます。
- アンバランスフォノケーブルは、RCA 入力端子に接続できます。
- アンバランス TRS ケーブルは 1/8 インチ入力端子に接続できます。[CR5-XBT]

注意：オーディオケーブルを電源ケーブルやコンセントなど、電磁干渉を発生するものの近くに置かないでください。これらはハムノイズの原因となります。壁面上のコンセント付近や、複数のケーブルが束になって置かれているような場所に設置すると、ハムノイズを拾ってしまう可能性が高くなります。

注意：一部のホームシアター用プリメインアンプには、パワーアンプ出力しか装備していない機種があります。パワーアンプ出力と CR-XBT の組み合わせでは使用できません。ラインレベル出力が可能なプリメインアンプとの組み合わせで使用してください。ラインレベル出力の可否はプリメインアンプメーカー様へお問い合わせください。

注意：パワーアンプのスピーカー出力端子からの信号を直接 CR-XBT シリーズに接続しないでください！スピーカーレベルはラインレベルの信号よりも比較的大きいので、CR-XBT シリーズの入力回路を損傷させる恐れがあります。

製品を長きにわたり使っていただくためには

フロントパネルにあるボリュームノブでは、電源を完全にオフにすることはできません。リアパネルの主電源スイッチをオフにすることにより、製品の寿命を延ばすことができます。長時間使用しない場合はリアパネルの主電源スイッチをオフにしてください。

お手入れとメンテナンス

CR-XBT シリーズマルチメディアモニターは、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- このモニタースピーカーを霧にさらさないでください。
- 極端に温度が低い場所（氷点下）に置かないでください。
- キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布だけをお使いください。また、電源が確実に切れていることを確かめてください。

ご不明な点は・・・

- mackie-jp.com にアクセスしてサポートの項目を確認してください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお送りください。
- テクニカルサポートセンターにお電話ください。
  - 日本語：03-5534-6783（月〜金、9 am 〜 5 pm）
  - 英語：1-800-898-3211（月〜金、8 am 〜 4 pm Pacific Time）

付録 A: サービスについて

CR-XBT マルチメディアモニターに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点を確認してください。弊社のウェブサイトのサポートセクションをご覧ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼ください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 電源コードがコンセントの奥までしっかりと挿し込まれていることを確認してください。
- 私たちの大好きな質問です。電源コードは接続されていますか？コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認してください。
- 次にお気に入りの質問です：電源スイッチをオンにしましたか？そうでなければ、スイッチをオンにしてください。
- 「カチッ」と音がするまでフロントパネルのボリュームコントロールを回しましたか？リアパネルの電源スイッチがオンでも、フロントパネルのボリュームコントロールが反時計回りに完全に回っていたら、電源は入りません。
- フロントパネルの電源 LED は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認してください。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。
- 内部の AC ラインヒューズがとんでいませんか？これはユーザーご自身で対応できる症状ではありません。AC ラインヒューズに問題があることが疑わしい場合は、弊社サポートセンターまで連絡してください。

音が出ない

- 入力レベルを絞りきっていませんか？システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- 音源の音量は上がっていますか？コンピューター、ミキサー、MP3 プレイヤー、スマートフォン（もしくはその他の優先的に接続されているデバイス）の音量が十分に上がっているか確認してください。
- ステレオペアとして使用している場合は、左右のスピーカーを入れ替えてみてください。例えば左のスピーカーから音が出ないと仮定した場合、スピーカー側で左右のケーブルを入れ替えてください。音が鳴った場合、原因はモニターではありません。ケーブルや音源に問題がある可能性があります。

音が良くない

- 音量が大きくて歪んでいますか？信号経路で過大入力となっている原因がないかを確認してください。システム内の全てのボリュームコントロールが適切に調整されているか確認してください。
- コネクターは入力端子の奥までしっかり挿し込まれていますか？全ての接続に問題がないことを確認してください。
- 可能であれば、ヘッドフォンでプリアンプ段階の音源を確認してください。もしそこで音が悪ければ、モニター以外に原因があることが考えられます。
- 低域が出過ぎている、もしくは低域が足りないと感じますか？モニターの配置場所を変えて、低域のレスポンスが変化するかどうか確認してください。部屋の形状によって低域がブーミーになったり、逆に薄く聴こえてしまうことがあります。その場合はモニターの位置を変更するか、リスニングポジションを変更してみてください。

ノイズ / ハム / バズ

- コンピューター / ミキサー /MP3 プレイヤー / スマートフォンとモニター間の接続に問題がないか確認してください。全ての接続に問題はありませんか？ケーブルがしっかり接続されていないとノイズの原因になる場合があります。
- CR-XBT のバランス入力へ接続されるものがアンバランス信号の場合、ソースのシールドがグラウンドへ接続されているか確認してください。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないでください。これらはしばしばノイズの原因となることがあります。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用のディマーや SCR ベースの機器を接続していませんか？ディマーはしばしばバズノイズの原因となります。AC 電源フィルターを使うか、スピーカーを別の AC 電源回路に接続してください。
- ヒスノイズが発生している場合、スピーカーへ入力される前の段階でゲイン設定が適切に行われていない可能性があります。
- 可能であれば、ヘッドフォンでも音を確認してください。そこでノイズが確認できた場合、原因はモニターではありません。
- 入力端子に接続したケーブルを抜いてください。これでノイズが消えた場合は、スピーカーに問題があるのではなく、グラウンドループによるノイズが発生しているのかもしれません。以下のトラブルシューティングを試してみてください。
- ノイズを最大限除去するため、システム全体をバランスで接続してください。
- 可能な場合は音響機器の電源コードを全てコモングラウンドを共有するコンセントに接続してください。コンセントとコモングラウンドの距離は可能な限り短くしてください。

付録 B：技術情報

CR-XBT シリーズ仕様

音響特性

周波数特性（-10 dB）	70 Hz - 20 kHz [CR3-XBT]
	60 Hz - 20 kHz [CR4-XBT]
	50 Hz - 20 kHz [CR5-XBT]
周波数特性（-3 dB）	80 Hz - 20 kHz [CR3-XBT]
	65 Hz - 20 kHz [CR4-XBT]
	69 Hz - 20 kHz [CR5-XBT]
最大 SPL ピーク（ペア）	97 dB [CR3-XBT]
	100 dB [CR4-XBT]
	105 dB [CR5-XBT]
クロスオーバー周波数	3.0 kHz

トランスデューサー

低域ドライバー	3.0 in / 76 mm [CR3-XBT]
	4.0 in / 102 mm [CR4-XBT]
	5.0 in / 127 mm [CR5-XBT]
	ポリプロピレンウーファー
高域ドライバー	0.75 in / 19 mm
	磁性流体シルクドームツィーター

アンプ

定格出力	50W Peak [CR3-XBT, CR4-XBT]
	80W Peak [CR5-XBT]
デザイン	クラス D

入力 / 出力

入力タイプ	1/4 インチ TRS バランス / アンバランス
	RCA アンバランス
	1/8 インチステレオアンバランス [CR5-XBT]
入力インピーダンス	
	20 k Ω バランスブリッジング ;
	10 k Ω アンバランス
出力タイプ	1/8 インチステレオヘッドフォン

電源要求

CR3-XBT / CR4-XBT	~100V - 240 VAC, 50 - 60 Hz, 60W
CR5-XBT	~100V - 240 VAC, 50 - 60 Hz, 80W

Bluetooth

Bluetooth プロトコル	4.2
Bluetooth 機能	オーディオストリーミング

構造

基本設計	長方形
エンクロージャー構造	中密度繊維版
仕上げ	黒色ビニールラップ
バスレフポート	
	カスタムチューンド・リアポートチューブ
ダンピング	断熱性精製綿
ディスプレイ LED	電源リング
	（Running Man ロゴ周り）
動作温度	0 - 40°C

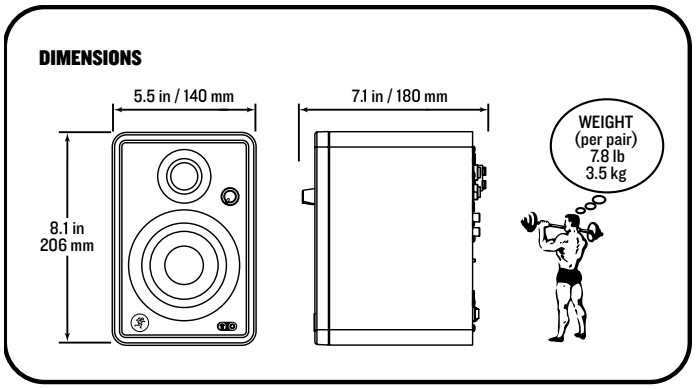
寸法・重量

CR3-XBT		
	高さ	206 mm
	横幅	140 mm
	奥行き	180 mm
	重量	3.5 kg
CR4-XBT		
	高さ	225 mm
	横幅	155 mm
	奥行き	210 mm
	重量	4.6 kg
CR5-XBT		
	高さ	260 mm
	横幅	175 mm
	奥行き	235 mm
	重量	6.8 kg

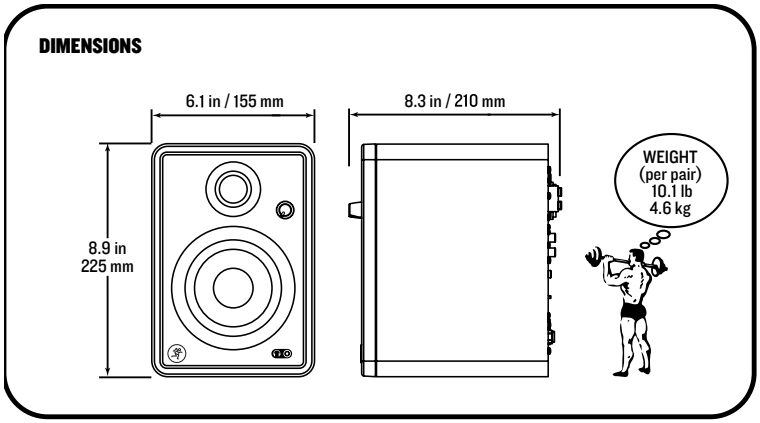
LOUD Audio 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観及び仕様は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running man」は LOUD Audio 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

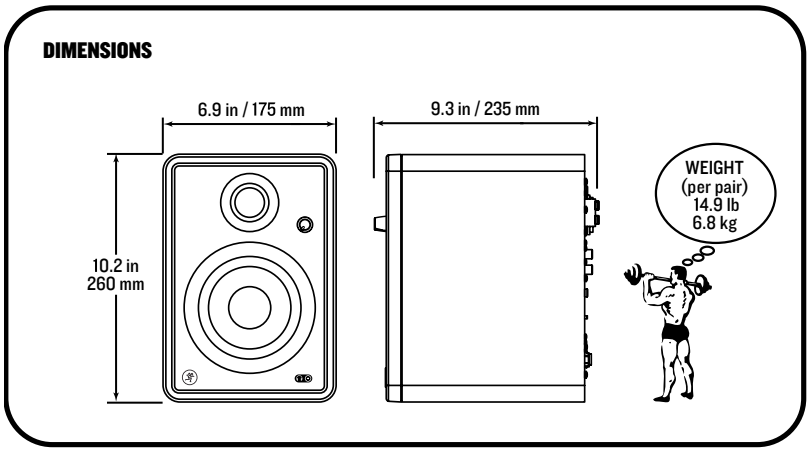
CR3-XBT 寸法



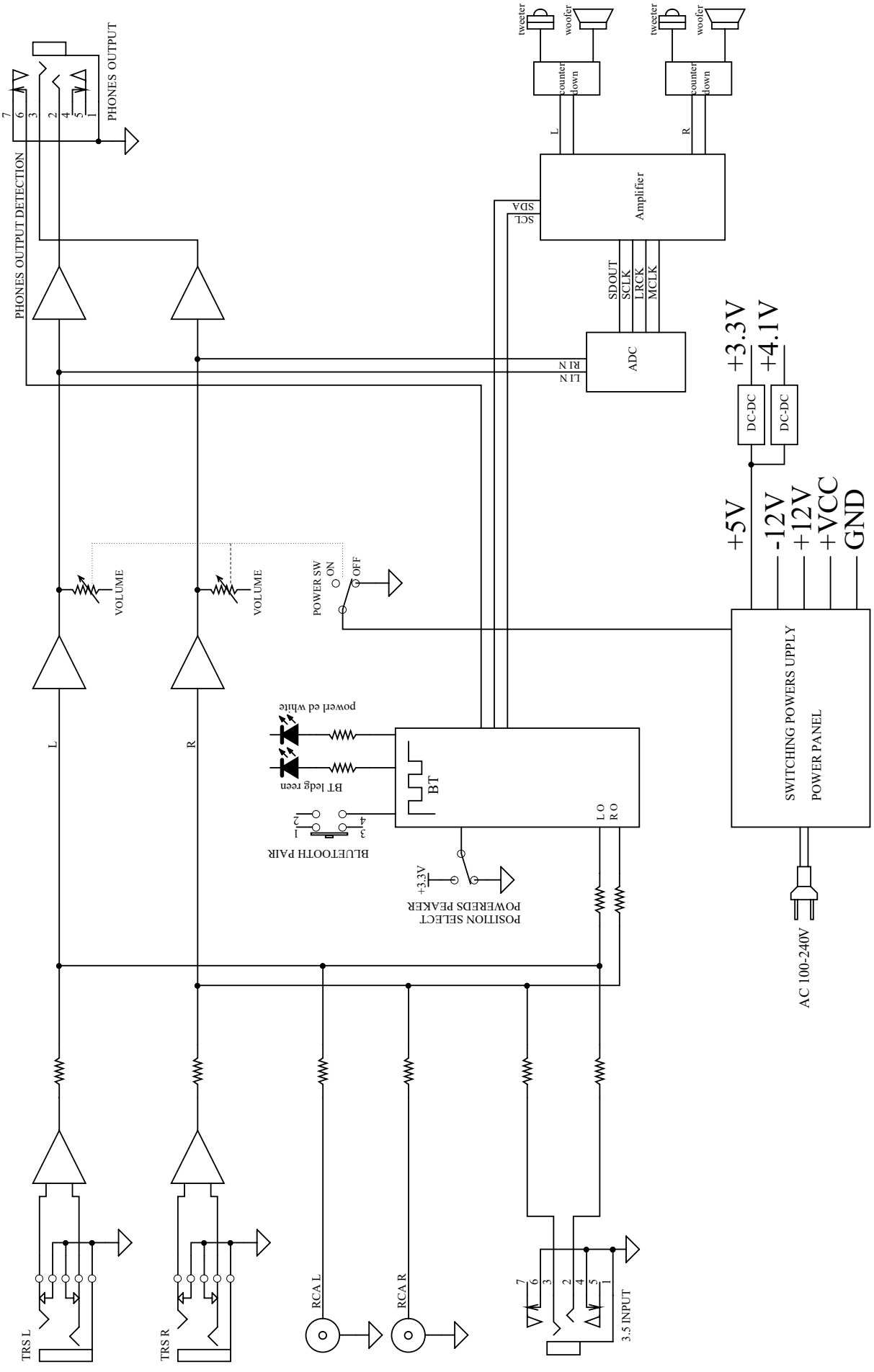
CR4-XBT 寸法



CR5-XBT 寸法



ブロックダイアグラム


PHONES OUTPUT
PHONES OUTPUT DETECTION
tweeter
woofer
counter down
Amplifier
SDA
SCL
SDOUT
SCLK
LRCK
MCLK
ADC
LIN
RIN
+3.3V
+4.1V
DC-DC
DC-DC
+5V
-12V
+12V
+VCC
GND
SWITCHING POWERS UPPLY
POWER PANEL
AC 100-240V
VOLUME
VOLUME
POWER SW
ON
OFF
L
R
BT
BT ledg reen
powerl ed white
BLUETOOTH PAIR
POSITION SELECT
POWERED SPEAKER
+3.3V
LO
RO
TRS L
TRS R
RCA L
RCA R
3.5 INPUT